

「福島原発告訴団」告訴声明

2012年6月11日

今日、私たち1324人の福島県民は、福島地方検察庁に「福島原発事故の責任を問う」告訴を行いました。

事故により、日常を奪われ、人権を踏みにじられた者たちが力をひとつに合わせ、怒りの声を上げました。

告訴へと一歩踏み出すことはとても勇気のいることでした。

人を罪に問うことは、

私たち自身の生き方を問うことでもありました。

しかし、この意味は深いと思うのです。

この国に生きるひとりひとりが大切

にされず、だれかの犠牲を強（し）いる

社会を問うこと

事故により分断さ

れ、引き裂かれた私

たちが、再びつなが

り、そして輪をひろ

げること

傷つき、絶望の中に

ある被害者が、力と

尊厳を取り戻すこ

と

それが、子どもたち、若い人々への責任



を果たすことだと思つのです。
 声を出せない人々や生き物たちと共に在りながら、
 世界を変えるのは私たちひとりひとり。
 決してバラバラにされず、つながりあうことを力とし、
 怯（ひる）むことなくこの事故の責任を問いつけていきます。

「福島原発告訴団」告訴人一同

被告訴・被告発人目録

- | | | | | |
|----|--------|-------------|------------|--------------------------------|
| 1 | 勝俣 恒久 | 東京電力株式会社 | 取締役 | 会長 |
| 2 | 鼓 紀男 | 東京電力株式会社 | 取締役副社長 | 福島原子力被災者支援
対策本部兼原子力・立地本部副部長 |
| 3 | 西澤 俊夫 | 東京電力株式会社 | 取締役社長 | |
| 4 | 相澤 善吾 | 東京電力株式会社 | 取締役副社長 | 原子力立地本部副部長 |
| 5 | 森 明生 | 東京電力株式会社 | 常務取締役 | 原子力・立地本部長兼福
島第一安定化センター所長 |
| 6 | 清水 正孝 | 東京電力株式会社 | 前・取締役社長 | |
| 7 | 藤原 万喜夫 | 東京電力株式会社 | 常任監査役 | 監査役会会長 |
| 8 | 武藤 栄 | 東京電力株式会社 | 前・取締役副社長 | 原子力・立地本部長 |
| 9 | 武黒 一郎 | 東京電力株式会社 | 元・取締役副社長 | 原子力・立地本部長 |
| 10 | 田村 滋美 | 東京電力株式会社 | 元・取締役会長 | 倫理担当 |
| 11 | 服部 拓也 | 東京電力株式会社 | 元・取締役副社長 | |
| 12 | 南 直哉 | 東京電力株式会社 | 元・取締役社長 | 電気事業連合会会長 |
| 13 | 荒木 浩 | 東京電力株式会社 | 元・取締役会長 | 倫理担当 |
| 14 | 榎本 聡明 | 東京電力株式会社 | 元・取締役副社長 | 原子力本部長 |
| 15 | 吉田 昌郎 | 東京電力株式会社 | 元原子力設備管理部長 | 前・第一原発所長 |
| 16 | 班目 春樹 | 原子力安全委員会委員長 | | |
| 17 | 久木田 豊 | 同委員長代理 | | |
| 18 | 久住 静代 | 同委員 | | |

- 19 小山田 修 同委員
- 20 代谷 誠治 同委員
- 21 鈴木 篤之 前・同委員会委員長(現・日本原子力研究開発機構理事長)
- 22 寺坂 信昭 原子力安全・保安院長
- 23 松永 和夫 元・同院長(現・経済産業省事務次官)
- 24 広瀬 研吉 元・同院長(現・内閣参与)
- 25 衣笠 善博 東京工業大学名誉教授(総合資源エネルギー調査会原子力安全・保安部会耐震・構造設計小委員会 地震・津波・地質・地盤合同WGサブグループ「グループA」主査。総合資源エネルギー調査会原子力安全・保安部会耐震・構造設計小委員会 地震・津波・地質・地盤合同WG委員)
- 26 近藤 駿介 原子力委員会委員長
- 27 板東 久美子 前・文部科学省生涯学習政策局長(現・同省高等教育局長)
- 28 山中 伸一 前・文部科学省初等中等教育局長(現・文部科学審議官)
- 29 合田 隆史 前・文部科学省科学技術政策局長(現・同省生涯学習政策局長)
- 30 布村 幸彦 前・文部科学省スポーツ・青少年局長(現・同省初等中等教育局長)
- 31 山下 俊一 福島県放射線健康リスク管理アドバイザー(福島県立医科大学 副学長、日本甲狀腺学会理事長)
- 32 神谷 研二 福島県放射線健康リスク管理アドバイザー(福島県立医科大学 副学長、広島大学原爆放射線医科学研究所長)
- 33 高村 昇 福島県放射線健康リスク管理アドバイザー(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科教授)

*責任をとるというのはどういうことでしょうか。この人たちにどうして責任をとるかは、放射能汚染は大したことではないと言いつつ通すことではないのでしょうか。そうでなければ膨大なあがないきれない罪を認めることになる。しかしそのことで犠牲になるのは、いのちの方だということ。そしてこの名簿の後には変わりたくない私自身がいる。糾弾されているのは私なのかも。

*経済といのち。二つの方向に引き裂かれそうな私たちの国。福島第一原発3号機に位置する正福寺坊守、まどか保育園副園長の松(まど)本洋子さんのお手紙に、その反比例の深刻さを知りました。この葛藤は、実は誰の中にもあるものだと感じます。正しい答えの方向を探すためには、それぞれの立場で言うべきことを言って、聞き合っていくことが大切ではないかと思えます。

5月もあと二週間過ぎ、時の過ぎるの早さに驚いておられます。いつも寺報ありがとうございます。時々、双葉や大熊の方々と会って、同じ境遇の者同士、心はずぐに通じあえます。

しかし、あの震災がどんどん風化してしまっている事や、原発の恐さも忘れられていく現在をひしひしと感じております。復興を声に出している人にとって、私達の原発の恐怖の声は、足を引くばかりにもなりかねない、複雑な心持ちにさせられます。

でも、あまりにも風化は早すぎると思いますし、皆様のエネルギーに対し、勇気もわいてきます。私達が声に出して、怖さを伝えていかねば、何のための三月十一日だったのか、何も学ばない愚かな私達、だけになってしまつてはしょう。

野生化した牛に「わされた仕切りの戸や、荒れはてた家の内外の様子を見ると、ゴーストタウン化した現実」言葉を失います。あまりにも大きい代償でしょう。

風評被害で苦しんでいる人々と、私達の胸の内をアピールするところが、反比例の要素を含んでしまつてはしょう。

世界中の人々の知恵を結集して、正しい答えの方向に、みんなが向いていける日を切望しております。

皆様の御支援や活動に本当に感謝しております。

松本洋子